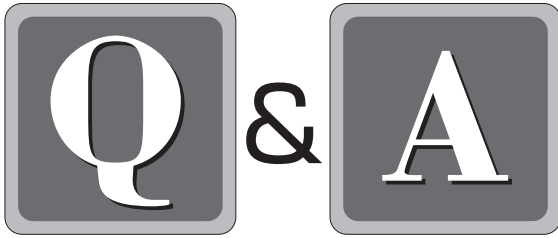


抗加齢専門医・ 指導士認定試験のための



澤登 雅一 Masakazu Sawanobori

三番町ごきげんクリニック院長

✉ sawanobori@kenko.org

専門医のためのQ&A

Q1

ゲノム医療について誤っているのはどれか。

解答肢

- 日本にはゲノム情報に基づく差別を禁止する法律がある。
- 将来の発症をほぼ確実に予測することができる場合がある。
- 検査結果が被検者のみではなく血縁者全体の問題となる場合がある。
- 臨床遺伝専門医，認定遺伝カウンセラーなどの専門の人材が必要である。
- 不適切に扱われた場合には，被検者および被検者の血縁者に社会的不利益がもたらされる可能性がある。

A :

解説

米国，ドイツ，フランスなどでは差別禁止法が存在するが，2020年1月の時点で日本には，保険の加入拒否や解雇など，遺伝学的特徴に基づく差別を直接禁止する法

的な規定がない。

遺伝学的検査およびその結果に基づいてなされる診断を行う際には遺伝情報の特性を十分考慮する必要がある。

表1. 日本医学会の示す遺伝情報の特性

- ・生涯変化しないこと
- ・血縁者間で一部共有されていること
- ・血縁関係にある親族の遺伝型や表現型が比較的正確な確率で予測できること
- ・非発症保因者（将来的に発症する可能性はほとんどないが，遺伝子変異を有しており，その変異を次世代に伝える可能性のある者）の診断ができる場合があること
- ・発症する前に将来の発症をほぼ確実に予測することができる場合があること
- ・出生前診断に利用できる場合があること
- ・不適切に扱われた場合には，被検者および被検者の血縁者に社会的不利益がもたらされる可能性があること

（答え：a）